

国立病院機構熊本医療センター

No.157



# くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 平成22年度第1回開放型病院運営協議会開催される

平成22年度第1回（通算29回）の国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が平成22年6月23日（水曜）午後7時より当センター会議室で開催されました。協議会の委員は熊本市医師会より医師会長の福島敬祐先生、副会長の加来裕先生、担当理事の田中英一先生、家村昭日朗先生がご出席いただき、当院より池井院長、河野副院長、野村統括診療部長、片渕地域医療連携室長が出席いたしました。院長より、医師会長はじめ医師会委員の先生方に日頃の御礼を述べ、続いて福島委員長よりご挨拶をいただきました。議事に移り、事務局より開放型病院利用状況、開放型病院登録医数、訪問医師数、共同指導数などを報告しました。次いで第28回開放型病院連絡会（平成22年2月20

日）の参加者数、「くまびょうニュース」の発行状況について報告を行いました。第28回連絡会には多数の参加があり、ご参加の先生方には改めて御礼申し上げます。次の協議事項では、平成22年度第1回（通算29回）開放型病院連絡会の開催について協議され、平成22年9月2日（木曜）午後7時より熊本県民交流館パレアホール（鶴屋東館10階）で開催されることが決定しました。内容は、総会ではミニレクチャー1題、病院からのお知らせ、総合討論などを行うことになりました。そのあと7階鶴屋ホールにおきまして懇親会を予定しております。開放型病院連絡会に多数の先生方、スタッフの皆様がご参加いただきますようお願い申し上げます。（副院長 河野 文夫）

## 仮設駐車場の利用方法を変更しました

旧病院の建物については、一部の基礎部分を除き解体撤去が終了し、新病棟からは熊本城の全景や市街地の様子も眺めることができるようになりました。

これから本格的に駐車場整備が始まることとなりますが、6月21日（月）より仮設駐車場の利用方法を一部変更（別図参照）し運用しておりますので、ご来院の際は駐車場係員の指示に従って頂きますようお願い致します。

また、今後は駐車場整備の進捗状況に合わせて仮設駐車場の利用方法も随時変更することとなりますので、ご理解の程よろしくお願い致します。

なお、工事が順調に進めば、今年度中には駐車場が完成する予定となっております。それまで、引き続き駐車スペースや水はけの問題で皆様方にご不便やご迷惑をお掛け致しますがよろしくお願い致します。

（企画課長 末次 剛輝）





## 医療とゴルフ

医法) 大光会

城北胃腸科内科クリニック  
院長 川上 孝男



当院は熊本市の北部、高平3丁目、国道3号線ダイレックスの隣に位置しています。

上・下部内視鏡、腹部エコーの検査を主体にしている為、胃癌・大腸癌・急性虫垂炎等の患者さんを時々認めます。その際、電話一本でいつも助けて頂き本当に感謝しています。特に外科の宮成先生にはお世話になっています。また、私では診断がつかない疾患でも、熊本医療センター救急外来の先生方に診断をつけて頂き、後で診断名を聞いたとき、冷や

汗が出たことも何度かあります。浅学非才の身を恥じる次第です。

私事ですが、昨年12月、玉名カントリークラブでゴルフのシニアの大会があり、2日間シニアプロとラウンドする機会に恵まれました。荒井現矩男、秋富由利夫、吉村金八、懐かしい名前のプロとのラウンドは楽しいものでした。彼らのゴルフは、生意気なようですがスーパーショットはありません。タイガーウッズや石川遼君のような鳥肌が立つようなプレイはありません。しかし、我々とは違う点、それはミスの少なさです。プロでもミスはしますが、いわゆるナイスミス、本当にいってはいけぬ所へは打ちません。バーディーやボギーにあまり一喜一憂せず、淡々とひとつひとつのショットを繋いでいきます。またミスした後のリカバリーのうまさに見習うべき点が多くありました。

最近このことを医療においても感じています。診察診断においてミスがないことはありえないことですが、いかに少なくするか、リカバリーできるミスに留めておくかが重要ではないかと思っています。

その点でも我々をリカバリーしてくれる、熊本医療センターの存在に安心しています。今後、熊本医療センターが益々発展されることを祈念します。

## FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

FAXの紹介用紙は、電話(代表 096-353-6501 内線 2360)またはFAX(医事 096-323-7601)でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

(経営企画室長 中村 敦)

# 新病院施設紹介〈8〉

## 外来化学療法センター

化学療法センター受付



化学療法室

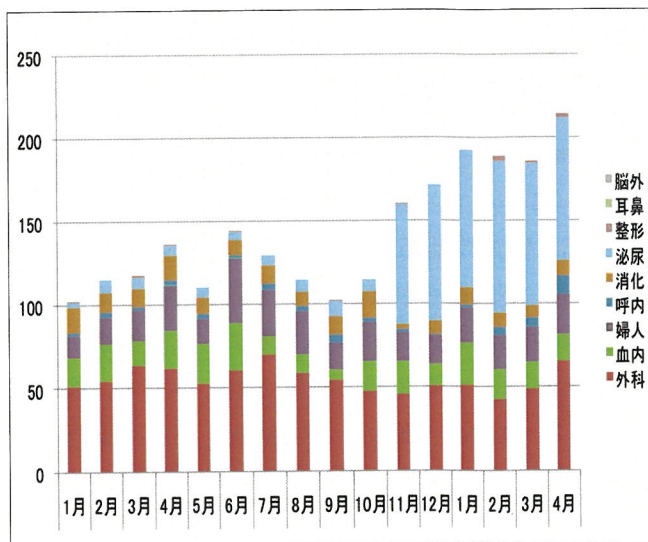


癌の化学療法の目覚ましい進歩にともない、全国的に外来で化学療法をうける患者さまが増えております。当院では15床の外来化学療法センターを運用しており毎月約200名前後の化学療法を行っております。外科、婦人科、泌尿器科、血液内科、消化器科、呼吸器、耳鼻科、脳外科、整形外科と治療を行う診療科も多岐にわたっています。

選任の医師、薬剤師（三角）、看護師3名（高瀬、谷川、鍋島）、外来師長、副師長が中心となって各科の医師と相談調整を行いながら運用をしています。患者さまが外来での化学療法を行うときに、様々な課題があります。まず、患者さんの癌治療に対する期待と不安があり、治療についての詳しい説明が必要です。当院では外来化学療法を行うときには、第一回の治療は入院で行ってもらい、安全性を確認して外来治療に移行するようにしています。この最初の入院の時に外来治療についてのオリエンテーションを行います。安全面から副作用についての説明を看護師から行い、高額な医療費となることもありますのでMSWから負担についての対策などの説明を受けます。患者さまも体調や家族の支援のあり方など様々です。スタッフは患者さんの直していこうと意欲思いを大切に、少しでも苦痛やつらさが軽くなるようにサポートをすることを真剣に考えております。先生方には何かとお世話になることも多いと思いますが、よろしくご協力をお願いいたします。

（化学療法センター長 清川 哲志）

化学療法センタースタッフ



化学療法実施数（診療科別）



**部長**  
**東 輝一郎**  
内科一般、内分泌・代謝一般、糖尿病  
日本内科学会認定医  
日本内科学会指導医  
日本内分泌学会内分泌・代謝科専門医  
日本内分泌学会内分泌・代謝科指導医  
日本糖尿病学会専門医  
日本糖尿病協会療養指導医  
日本人間ドック学会人間ドック認定医  
日本人間ドック学会研修関連施設指導医  
日本医師会認定産業医  
日本内科学会九州地方会評議員  
日本内分泌学会九州地方会評議員  
日本内分泌学会代議員  
臨床修練指導医  
臨床研修指導医  
国際医療福祉大学特任教授



**医長**  
**鶴田 敏久**  
小児科一般、血液一般  
悪性腫瘍、化学療法  
日本小児科学会専門医  
日本血液学会専門医  
日本血液学会指導医  
日本がん治療認定医機構暫定教育医  
日本がん治療認定医機構認定医

## 診療内容・特色

臨床検査科は検体検査部門と生理検査部門の2部門から成っています。医師2名（本年4月より1名は専任）、臨床検査技師25名（内7名は非常勤、4名は病理検査室）が配属されております。新病院では検体検査室は管理部門や医局がある3階に、生理検査室及び採血室は外来がある4階に配置されています。検体検査室では一般検査、血液・凝固検査、生化学検査、免疫血清検査、細菌検査、輸血検査、輸血製剤の払い出しを行っており、生理検査室では心電図、トレッドミルを含む負荷心電図、心臓超音波検査、腹部超音波検査、肺機能検査、脳波検査、神経伝導速度、血圧脈波

検査（ABI/TBI）、出血時間などの検査を行っております。生理検査は各専門の診療科の先生方のご指導の下で、採血は各部署の看護師の方々のご協力の下で行っております。

本病院での最大の特色は24時間対応の三次救急指定病院であるため、検体検査室では一部の特殊機器を除いて、殆ど検査機器が24時間停止することなく稼働している点です。また、全国多くの病院に先駆け、全ての輸血製剤にT&S法を取り入れ、コンピュータクロスマッチにより、払い出しまでの時間のロスを減らしております。検体検査などに関わる試薬、消耗品類に関しては、各国立病院機構の病院と共同購入を進め、各検査のコストを抑えることにより、包括的診療報酬制度（DPC）内での必要十分な検査体制の確保が行われております。新病院への移転と共に最新の検査機器の導入も行われており、特に生化学検査の自動分析装置（JCA-BM6070）は業界最高速で非常に微量の試薬量、検体量で検査が出来るため、多くの検査への応用が考えられており、今後、必要となる新しい検査項目の一翼を担うものと考えられます。

## 診療実績

平成21年の各種検査の検体数は79,717件（前年度比3.3%）、血液・凝固299,979件（前年度比8.3%増）、生化学1,522,761件（9.7%増）、免疫血清67,565件（10.3%増）、細菌45,102件（10.6%増）、輸血検査22,234件（0.8%減）、生理検査45,689件（4.3%増）と、輸血検査を除いて、各検査部門とも検体数が増加しておりました。

## 研究実績

平成21年度は論文発表3編、学会、シンポジウム発表14題、その他院外、院内を問わず、多くの研修会での発表を行っております。

## ご案内

輸血製剤管理の一元化の流れに伴い、本年7月より、アルブミン製剤の管理を臨床検査科で行うことを予定しております。薬剤科の方々のお力をお借りしたり、関係部署の方々にはご不自由をお掛けしたりすることもあるかとは思いますが、ご協力の程、何卒よろしくお願い致します。

# 緩和ケア研修会を開催しました

6月5日6日の両日、当院の地域医療研修センターで平成22年度国立病院機構熊本医療センター緩和ケア研修会が開催されました。がん対策推進基本計画で「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことが目標として掲げられています。当院のような地域がん連携拠点病院には、緩和ケアの普及のための活動を行うことが求められており、当院でも昨年につき2回目の開催になります。

本年度は医師20名、看護師・薬剤師等8名の参加をいただきました。この研修会でお伝えしたいメッセージは3点あり、患者さんが不快な症状・不安を持った時には緩和的アプローチの対象になること(ほぼすべての患者さんで早期から当てはまることだと思います)、患者さんとのコミュニケーションの取り方で医療者・患者双方がストレスなく関係を維持できること、地域ぐるみで患者さんの希望する療養形態を支えていくには多職種・多施設での連携が不可欠であること、以上に集約されます。ワークショップ・ロールプレイを通じて、実践するための様々な症状の評価法・対応策について受講された皆さんで相談していただき、その情



報を共有しました。すべて日常の診療にすぐに生かせる内容ばかりであり、我々ファシリテーターも新たな知識を得ることができました。

丸2日間の長丁場ではありますが、がん患者さんのQOLの向上のために非常に有用な研修会になりました。来年も同時期に開催することになると思います。来年春頃にホームページで募集することになりますので奮ってご参加ください。なお修了された医師には厚生労働省健康局長からの修了証書をお渡ししました。

(血液内科 榮 達智)

# ホームページをリニューアルオープンしました

新病院完成後9ヶ月が経過しましたが、今回、当院ホームページを「患者様に温かく」「より分かりやすい」をコンセプトとしてリニューアルいたしました。

今回のリニューアルでは、第一に患者様に、わかりやすくご利用頂けるように、見やすく、知りたいことを探しやすいホームページを目指し、デザインの変更、情報の再整理をおこないました。

また今回は、求人案内などもわかりやすくいたしました。

今後も患者様第一を肝に銘じ、患者様のために、そしてご家族の皆様、医師や看護師の皆様、地域の皆様のためにも、よりよい情報を提供していければと念じております。今後とも何とぞ宜しくお願いします。

(副院長 河野 文夫)



今までと  
ココが  
違う!

① TOP 画面に新病院写真を  
多数使いました。

② 患者様が使いやすい形に  
変えました。

## 最近のトピックス

### アスペルガー障害 (Asperger's Disorder)



精神科医長

渡邊 健次郎

最近日本でも増えてきていると言われ話題になることの多いアスペルガー障害は、自閉症 (Autism) や、注意欠陥多動性障害 (ADHD: Attention Deficit/Hyperactivity Disorder)、学習障害 (LD: Learning Disorders) などとともに通常低年齢において発現する脳機能障害で発達障害に分類されています。1944年、オーストリアの小児科医ハンス・アスペルガー (Hans Asperger) が、前年にレオ・カナー (Leo Kanner) が報告した自閉症の症例よりも軽度で言葉の遅れのない自閉症の特徴を持つ子どもに対して『自閉的精神病質』と診断して初めて報告しました。

発症頻度は、200~300人に1人で、女兒よりも男児の方が3~4倍ぐらい多いといわれています。シリコンバレーでは一割の人が該当するといわれており、過去の有名人では、アインシュタイン、ゴッホ、エジソン、ヒットラーなども、アスペルガー障害だったのではないかとされています。

臨床特徴として、幼児期に親と視線が合わない、人を避ける (社会性の障害)、双方向の気持ちの交流がなく一方的に話す、文字通りに言葉を受け取る (コミュニケーションの障害)、同じ行動を反復する、変化に対してパニックになりやすい、興味が乗り物など著しく限局している (反復性・常同性)、知覚過敏をもち特定の音を嫌うなどです。言語や知能面の発達は正常ですが、社会的な相互交流と興味の限定において自閉症と同様の特徴を持っています。

このような特徴のため、こだわりが強く、対人関係が不器用で他人の表情や声のトーンから相手の気持ちを読みとれないために「空気が読めない人、冗談が通じない人」と思われます。

一方、高い言語能力があり、優れた記憶力を有すること、視覚的処理能力が高いこと、持続する関心・情熱を持つことなどの特性があり数学者やコンピュータープログラマーとして能力を発揮している人が多いといわれています。

原因や、発症メカニズムははっきりわかっていませんが、遺伝や生物学的な要因、免疫学的な要因などが複雑に作用した結果、胎内での中枢神経系の発育時に

何らかの問題が生じるのではないかと考えられています。また、機能的MRIや脳波などを用いた研究では、自閉症スペクトラムの人では前頭葉の働きが低下しているという報告があります。

治療としては、早期に診断を行い、対人関係やコミュニケーションの改善を図ることが中心で、社会スキルの訓練 (SST: Social Skills Training) を早くから始めた場合には、病態の軽症化が認められます。薬物は不安や衝動性など随伴症状に対する対症療法として使用されます。

DSM-IV-TR「精神疾患の分類と診断の手引き」によるアスペルガー障害の診断基準

299.80 アスペルガー障害 Asperger's Disorder

A. 以下のうち少なくとも2つにより示される対人的相互作用の質的な障害:

- (1) 目と目で見つめ合う、顔の表情、体の姿勢、身振りなど、対人的相互反応を調節する多彩な非言語性行動の使用の著明な障害。
- (2) 発達の水準に相応した仲間関係をつくることの失敗。
- (3) 楽しみ、興味、達成感を他人と分かち合うことを自発的に求めることの欠如 (例: 他人の達に興味のある物を見せる、持って来る、指差すなどをしてしない)
- (4) 対人的または情緒的相互性の欠如。

B. 行動、興味および活動の、限定され反復的で常同的な様式で、以下の少なくとも1つによって明かになる:

- (1) その強度または対象において異常なほど、常同的で限定された型の1つまたはそれ以上の興味だけに熱中すること。
- (2) 特定の、機能的でない習慣や儀式にかたくなにこだわるのが明らかである。
- (3) 常同的で反復的な術奇的運動 (例えば、手や指をばたばたさせたりねじ曲げる、または複雑な全身の動き)。
- (4) 物体の一部に持続的に熱中する。

C. その障害は社会的、職業的、または他の重要な領域における機能の臨床的に著しい障害を引き起こしている。

D. 臨床的に著しい言語の遅れがない (例: 2歳までに単語を用い、3歳までにコミュニケーション的な句を用いる)。

E. 認知の発達、年齢に相応した自己管理能力、(対人関係以外の) 適応行動、および小児期における環境への好奇心などについて臨床的に明かな遅れがない。

F. 他の特定の広汎性発達障害または統合失調症の基準を満たさない。

いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ 45回

## 肺塞栓症、深部静脈血栓症に対する悉皆登録研究

循環器内科医長 藤本 和輝



肺塞栓症（図1）、深部静脈血栓症は、日本において欧米に比べ認識が低かったため、まれな疾患でしたが、近年、肺塞栓症、深部静脈血栓症に対する認識が高くなり、診断技術が向上し、急激に増加しています。

欧米において肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症に対する大規模調査研究が行われ、確立された治療法により、肺塞栓症、深部静脈血栓症の発生頻度、致死的な症例が激減しました。しかし、日本においていまだ欧米のような大規模調査研究が行われておらず、各々の施設が独自の予防法、治療法で行っています。予防に関しては、弾性ストッキング、間欠的空気圧迫法、ヘパリンの使用、治療に関しては、ヘパリン、ウロキナーゼ、クリアクター、一時的/永久下大静脈フィルター（図2）、PCPS、外科的血栓除去術、ワーファリン内服などを行っていますが、各々の施設が独自の判断で、予防、治療を行っているのが現状です。一時的/永久下大静脈フィルターは良い治療法ですが、いまだ明ら

かな治療指針がありません。また、2005年7月にモンテプラゼが、肺塞栓症に対する血栓溶解薬ではわが国で初めて保険適用となりましたが、この治療法に関しても、手探り状態です。

肺塞栓症、深部静脈血栓症に対する悉皆登録研究を行い、日本の現状を正確に把握することにより、より良き予防法、治療法が確立できることが期待されます。より良き予防法が確立できれば、肺塞栓症、深部静脈血栓症を未然に防ぐことができ、肺塞栓症による突然死を予防できる可能性があります。予防法が確立できれば、治療が必要なくなるので、医療費が削減できます。また、より良き治療法が確立できれば、肺塞栓症、深部静脈血栓症の予後を改善し、重症例を救命できる可能性が高くなります。

独立行政法人国立病院機構の36施設が参加し、2年目の平成22年1月までに289例の症例を登録し、現在進行中です。

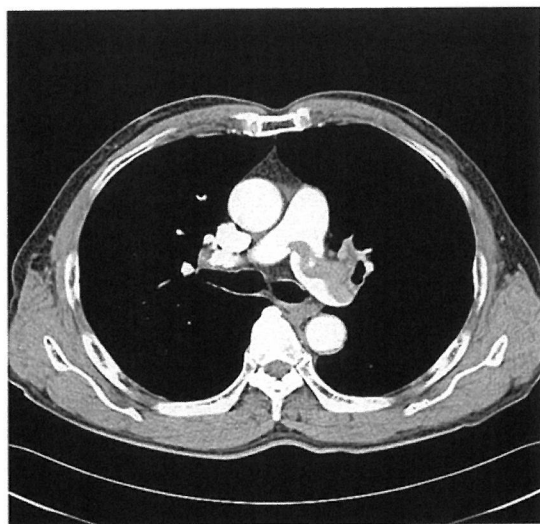


図1 造影CT上、左肺動脈に多量の血栓を認めます。

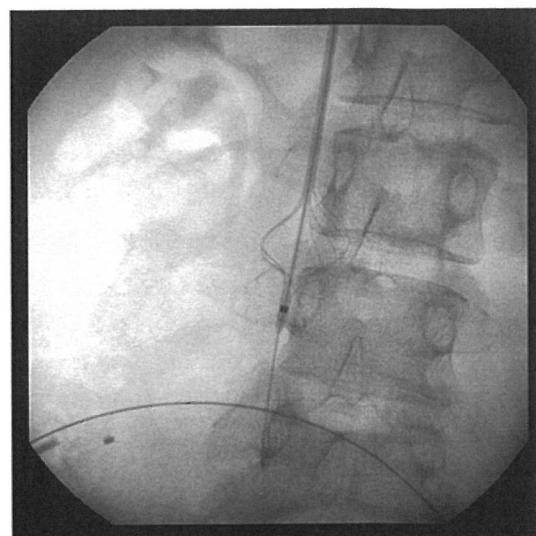


図2 深部静脈血栓症を合併していましたので、一時的な下大静脈フィルターを挿入しました。

## 研修医レポート

### 臨床研修医

1年次 伊藤 仁



こんにちは研修医1年目の伊藤仁と申します。山口大学を卒業し、4月から熊本医療センターで研修させていただいております。日々わからないことだらけで、指導医の先生はじめ、多くの職員の方々からご指導いただいている毎日です。この場を借りて御礼申し上げます。

私は消化器内科から研修を開始しております。消化器内科ではまず患者さんとの接し方や他職種の方々へ

の連絡、報告の大切さ、他科へのコンサルトの仕方など医師として基本的な内容から指導していただきました。また腹部エコー検査を実際に行いその所見を書いたり、CVカテーテルの挿入、上部消化管出血に対しての緊急止血を行う場面なども経験させていただき、医師になったのだという実感と責任を強く感じました。救急外来では緊迫した場面で何もできずに固まってしまうことも多く、看護師や放射線技師の方々に助けていただいている毎日です。患者さんが次から次に入れ替わるなかで、一人一人の患者さんの状態を理解するのはなかなか大変ですが、急性期病院の忙しさとやりがいを感じております。

まだ研修は始まったばかりですが、期待した通りの充実した研修生活を送らせていただいております。少しでも早く患者さんや職員の皆様の役に立てるように勉強してまいりますので、今後ともご指導のほどよろしく申し上げます。

### 臨床研修医

1年次 楊 拓也



こんにちは。研修医1年目の楊拓也と申します。研修が始まって2か月が経ちました。私は初めてのローテーションとして救命救急部でお世話になりました。救急と申しますと、非常にスピードが要求され、時に大胆な処置も行わなければならない・・・そういったイメージから、救急部からローテーションを開始することに強い不安を覚えておりました。しかし、実際に研修をさせていただきますと、指導医の先生をはじめとし他の先生方、スタッフの方々が熱心にご指導して下さい、すぐに救急部の雰囲気になじむことができました。また、採血、ルート確保、CVカテーテル挿入、

気管内挿管など日々多彩な手技を実践、習得することができました。さらに、初めて医療現場にチームの1員として加わって、今まで気づかなかったスタッフの方たちの患者さんへの気遣いや、医師に求められている役割といったものを学ばされました。これからも学ばなくてはならないことが山ほどありますが、研修として初めの2ヶ月間、日々充実感と医師として働けるようになった喜びをかみしめながら過ごせたことは本当にありがたいことでした。

まだ、わからないことが多くこの2か月間だけでも数えきれないほど多くの方にご迷惑をお掛けしてしまいましたが、皆様にはその度に温かくご指導していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、ご迷惑をお掛けすることも多いかとは思いますが、日々精一杯頑張ってくつもりでございますので、どうぞご指導のほどよろしく申し上げます。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>



# 研修のご案内

## 第107回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕  
〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定〕

日時▶平成22年7月15日（木）19：00～20：45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「関節リウマチを合併した2型糖尿病にステロイドを投与し予想に反して  
必要インスリン量を減少させることが出来た一例」  
国立病院機構熊本医療センター 糖尿病・内分泌内科  
大内繭子、島川明子、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎
  2. 「糖尿病患者の教育入院における栄養士からみたアンケート結果の分析—現状と課題—」  
国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室  
近藤高弘、前田摩由、阿部真世、大山明子、椿裕子
- なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。  
〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501（代表）内線5705

## 第138回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成22年7月26日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
  2. 持ち込み症例の検討
  3. 症例検討「血小板減少、溶血性貧血の一例」  
国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 武本 重毅
  4. ミニレクチャー「低ナトリウム血症の診療」  
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 島川 明子
- 日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。  
〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

## 第99回 総合症例検討会（CPC）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成22年7月28日（水）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

- テーマ：全身痛と高熱での緊急入院（70歳代 女性）
- 臨床担当）国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 富田 正郎  
病理担当）国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理室長 村山 寿彦
- 「慢性C型肝炎、慢性腎不全にて通院治療をしていたが、全身痛と高熱が出現して、トイレも歩行も困難となり緊急入院となった。」
- \* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。  
〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）

## 第4回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2単位認定〕

日時▶平成22年7月31日（土）15：00～17：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：熊本市医師会理事 齋藤 龍也 先生

演題：「めまい・ふらつき」

1. 神経内科の立場から 国立病院機構熊本医療センター神経内科 幸崎弥之助
2. 耳鼻咽喉科の立場から 国立病院機構熊本医療センター耳鼻いんこう科医長 緒方 憲久

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）FAX 096-352-5025（直通）

# 2010年 研修日程表 7月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

| 7月     | 研修センターホール   | 研修室  | その他  |
|--------|---|--|--|
| 1日(木)  |   |  | 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1<br>17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北<br>17:30~19:00 超音波カンファレンス 消<br>18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2 |
| 2日(金)  |   |  | 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手<br>8:00~9:00 消化器病研究会 C1<br>17:00~21:00 救急部カンファレンス C2  |
| 3日(土)  | 14:00~16:00 第222回 滅菌消毒法講座<br>「滅菌の実践」 熊本市民病院手術部第1種滅菌技師 青木千津子   |  |  |
| 4日(日)  | 13:00~16:50 第24回 臨床薬理セミナー(会費制)<br>「糖尿病と内分泌代謝疾患について」<br>1. 今後の糖尿病治療戦略<br>2. 効果的な糖尿病患者の服薬指導<br>3. 糖尿病治療におけるインクレチン関連製剤の位置づけ  | 熊本大学大学院生命科学研究所代謝内科学教授 荒木 栄一<br>熊本市市民病院手術部第1種滅菌技師 青木千津子<br>熊本大学大学院生命科学研究所代謝内科学教授 西村 博之<br>熊本市市民病院手術部第1種滅菌技師 西田 健朗 | [日本医師会生涯教育講座 3単位認定]<br>[日本薬剤師研修センター認定研修 2単位認定]   |
| 5日(月)  |   |  | 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1<br>16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西<br>17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西                                 |
| 6日(火)  |   |  | 15:00~16:30 血液病懇話会 C2<br>15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1<br>18:00~21:00 救急部カンファレンス C2                                    |
| 7日(水)  |   |  | 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2<br>17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1  |
| 8日(木)  | 19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会<br>一般検査研究班月例会  |  | 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1<br>17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北<br>17:30~19:00 超音波カンファレンス 消<br>18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2 |
| 9日(金)  |   |  | 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手<br>8:00~9:00 消化器病研究会 C1<br>17:00~21:00 救急部カンファレンス C2  |
| 10日(土) | 9:00~18:10 第25回 ナースのための人工呼吸セミナー<br>(講演) 1. 呼吸生理と血液ガス 琉球大学医学部救急医学教授 久木田一朗<br>2. 呼吸管理と看護のポイント 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・集中治療室長 瀧 賢一郎<br>3. 慢性呼吸不全に対する非侵襲的人工呼吸と管理 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 柏原 光介<br>4. 各種病態における呼吸不全の治療 山口大学医学部附属病院先進救急医療センター講師・センター副部長 鶴田 良介<br><br><実習> 人工呼吸器の取り扱い実習 |  |  |
| 12日(月) |   |  | 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1<br>16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西<br>17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西                                 |
| 13日(火) |   |  | 15:00~16:30 血液病懇話会 C2<br>15:00~18:30 外科術前後症例検討会 C1<br>18:00~21:00 救急部カンファレンス C2<br>18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1 |
| 14日(水) |   |  | 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2<br>17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1  |
| 15日(木) |   | 19:00~20:45 第107回 三木会(研2)<br>(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)<br>[日本医師会生涯教育講座 単位認定]<br>[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]    | 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1<br>17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北<br>17:30~19:00 超音波カンファレンス 消<br>18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2 |
| 16日(金) |   | 15:30~16:45 肝臓病教室(研2)<br>「急性肝炎」  | 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手<br>8:00~9:00 消化器病研究会 C1<br>17:00~21:00 救急部カンファレンス C2  |
| 17日(土) |   | 15:30~18:00 熊本地区核医学技術懇話会(研2)   |  |
| 20日(火) |   |  | 15:00~16:30 血液病懇話会 C2<br>15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1<br>18:00~21:00 救急部カンファレンス C2                                    |
| 21日(水) |   |  | 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2<br>17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1  |
| 22日(木) |   | 19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)   | 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1<br>17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北<br>17:30~19:00 超音波カンファレンス 消<br>18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2 |
| 23日(金) |   |  | 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手<br>8:00~9:00 消化器病研究会 C1<br>17:00~21:00 救急部カンファレンス C2  |
| 26日(月) | 19:00~20:30 第138回 月曜会(内科症例検討会)<br>[日本医師会生涯教育講座 単位認定]  |  | 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1<br>16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西<br>17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西                                 |
| 27日(火) | 18:30~20:30 血液研究班月例会  | 19:00~21:00 小児科火曜会(研1)   | 15:00~16:30 血液病懇話会 C2<br>15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1<br>18:00~21:00 救急部カンファレンス C2                                    |
| 28日(水) | 19:00~20:30 第99回 総合症例検討会(CPC)<br>[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]<br>「全身痛と高熱での緊急入院」   |  | 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2<br>17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1  |
| 29日(木) |   |  | 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1<br>17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北<br>17:30~19:00 超音波カンファレンス 消<br>18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2 |
| 30日(金) |   |  | 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手<br>8:00~9:00 消化器病研究会 C1<br>17:00~21:00 救急部カンファレンス C2  |
| 31日(土) | 15:00~17:30 第4回 症状・疾患別シリーズ<br>[日本医師会生涯教育講座 2単位認定]<br>座長 熊本市医師会理事 齋藤 龍也<br>「めまい・ふらつき」<br>1. 神経内科の立場から 国立病院機構熊本医療センター神経内科 幸崎弥之助<br>2. 耳鼻咽喉科の立場から 国立病院機構熊本医療センター耳鼻いんこう科医長 緒方 憲久  |  |  |

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手 手術室  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)